

お客様各位

株式会社 山喜農園
新潟県魚沼市原1280-1
TEL. 025-794-2455
FAX. 794-4168

E-mail: info@yamaki-noen.co.jp
HP Address: http://www.yamaki-noen.co.jp

球根情勢報告

15年産南半球産百合球根在庫表送付にあたり

平素よりお引き立ていただき誠にありがとうございます。

15年産南半球産百合球根在庫表（3月13日付発行）を送付させていただいております。
よろしくご確認ください。

1) 3月12日までにご注文の為替レート

3月第2週に入り、急速に円高が進みました。

当社におきましては、既に『1EURO=¥133.0~¥136.0-の間で管理する様、努力いたします。』という事でご案内させていただいております。（円高になっても、円安になっても…。）

3月9日（月）にC.H産ザンバルズ社との売買契約作業が終了し、まだ全ての品種の仕入価格が確定したわけではございませんが、概ね98%強について決定することが出来ました。

一方、12月末~1月中旬より先行して進めておりました為替レートは、仕入予定額の85%強をカバーしております。

今日現在の為替レートと比較するとやや円安気味で気が引けますが、3月12日までにご注文につきましては、1EURO=¥134.0-適応にて計算させていただきます。ご理解いただきます様よろしくお願い申し上げます。

2) 仕入作業

1月下旬より実行されておりました仕入作業は、思いのほか難航いたしました。

LOMV+Plamvなどの様々な問題が発生した14年産を踏まえて、各球根栽培会社/輸出会社との協議を重ね、15年産だけではなく「3年先・5年先にどうするのか？」を考えながら作業に当たりました。

既にご案内した『FOB 価格』=『現地渡し価格』の中で、上方/下方に微調整させていただいている品種/サイズがございます。大半の品種が「下方修正」されているはずですが、(Vletter社新品種O.T・一部O.H系・セダ LOS etc.)

FOB 価につきましては、さかのぼって今回在庫表に載せた価格を適応いたします。
よろしくご確認ください。

3) 3月13日以降のご注文の為替レートについて

3月13日以降新規ご注文につきましては、1EURO=¥130.0-/¥134.0-にて、価格を作成してみました。(¥134.0-での円貨、ご案内という意味を含めて。)

ここまでの管理状況、これからの状況を勘案し…。¥134.0-で固定した分が大幅に欠品するケースも考えられますよね…。従って、目標は¥130.0~¥132.0-くらいに設定しています。

出来るだけ頑張ります。よろしくお願い致します。

4) なぜこの生産地・この品種を…

ここに至るまでの仕入作業は、新しい悩みがいっぱいでした。

価格についてもそうです。(他球根消費国為替レートは、ほぼUSドル連動です。EUROに対して圧倒的に強い!)
現地価格を下げて頂くのにやや骨が折れました。

1月から交渉が始まったので、輸出業社はFOB価を下げざるを得なかった…。(他国との取引が始まっていなかった。)

仮に2月中旬/3月から始めていれば、FOB価はここまで下がらなかったかもしれません…。(他国の動きが見えてきた。)分かりません…。(円高レートを使えたかもしれませんが、FOB価は高止まったかもしれないという意味…。)

面白い現象が起きています。

主力品種(生産量の多い品種・流通量の多い品種)の価格が最も下げにくい…これは、新しい動きとなる様です。

既に開始された15年産フランス産百合球根A.H/L.A仕入作業においても、少量生産品種は、昨年と同じか、やや価格下げ基調。(これから普及させなければならない。)

一方、主力品種の価格は、昨年対比上昇/品薄傾向となっている様です。

生産計画を立てやすい、切花市場に安定供給できる品種の価格が、明らかに強まっているように見えます。新品種については試験開発量程度あれば良い…。

各球根消費国の球根消費傾向は、その国の、花卉消費動向に連動するのは当たり前ですね!

どうやら南半球産O.H/O.T系主要消費国は、フランス産/フランス産を消費する市場、またはそれ以上に「継続性のある販売出荷が可能な球根生産量が確保できる品種」を求める傾向になってきている様です。南半球産を含めて12ヶ月連続生産…。(日本が完全にそうになっているかどうかは…そろそろそうになっていませんか?)

N.Z産のある生産会社は、北半球/南半球で、他球根生産会社が確実に生産量を減少させることが決定している品種を、改めてティッシュカチャーをかけて再度増産に向かうそうです。キーワードは、「花保ち」と「輸送性」だそうです。(花保ちの悪い品種・花ジミの出やすい品種は短期的には通用するが、なかなか続きはしない…。)

答えが出るのはまだ先の話ですが…、どの品種のことを言っているのでしょうか?

切花流通業者/花屋さん/消費者にその選択が支持していただけるようになればありがたいですね!

まとめに…

14年産で良い結果が出せなかった産地・品種を、再度購入する事は、ものすごく勇気が要ります。(輸出業社名ではない!・球根生産会社単位に考えなければならない。完全にそうなったと思いますが…少なくとも輸出入会社レベルでは…。)

納得がいくまで、話し合いをすすめても、必ずしも想定通りにならない…。

球根生産会社/輸入業社の一部には、昨年/一昨年、8月/9月に定植された養成球根ペンから「PCR」「ELISA」にて調査したレポートを紙面に示してレポートを提出してきた会社もいました。(だからどんな意味があるの?)

15年産/16年産/17年産販売球根生産の為に、どんな原母球を使っていくのか、養成球はどの様に管理していくのかなど、今までとはずいぶん違う打ち合わせ内容になってきました。

天候だけではなくて、14年産と15年産とでは、各々の球根農家毎にどのように違うのか、一生懸命考えて、確認して仕入れたつもりです。

うまくいくことを願っています。

よろしくお願い致します。

詳細はお問い合わせください。



<http://www.lily-promotion.jp/>
私共はLIPJの運営に賛同し
協力・応援しています

以上 森山 隆